

よこすか未来会議は2019年に策定した「マニフェスト2019-2023」（議員任期4年で取り組むべき課題を集めた政策集）に従い、毎年政策提言や代表質問の機会を通じて政策実現に向けて活動しています。この資料では2021年度予算に向けた政策提言2021と令和3年2月25日に行った代表質問から、実現した政策を一部紹介します。

## 代表質問より

録画中継はこちらから→



事業の評価サイクルを毎年実施すべき

今までの4年に一度から毎年実施する。

事業評価シートを作るべき

見やすくわかりやすい横須賀版の評価シートを作る。

課の名称は所管の内容が偏らないようにすべき

基地渉外課を「国際交流・基地政策課」に名称変更する。

子供の一時預かりをもっと使いやすくすべき

令和3年度にはウェルシティなど3カ所に新設する予定で今後も実施箇所の拡充に努める。あわせて利用申し込みのシステムも研究していく。

審議会（外部有識者等を交えた会議）のオンライン開催を進めるべき

開催の方向で進めている。

市独自の雇用対策をいま以上に推進するべき

雇用対策はやれることはなんでもやりたい。合同企業説明会や「ごきんじょぶよこすか」を活用する。



←発言通告書全文はこちらから

## 政策提言より

政策提言2021はこちらから→



1-4-1 在宅勤務などの柔軟な働き方を保障し、職員が子育てや介護などをしやすくするため、庁外での執務（在宅ワーク）ができるようさらに検討すること。また、そのための制度、設備の導入、および利用しやすい職場環境の整備を進めること。

今まではコロナ禍の中で在宅勤務は妊娠中の職員のみを対象に実施していたが、令和3年1月にテレワーク端末315台を増設したことに伴い、対象を全職員に拡大した。

5-2-1 教師が子どもと向き合う時間を確保するため、35人以下学級を小学校6年生まで早期に実現するべく、必要となる教職員数を確保すること。教員の採用が難しい中では、市単独で事務職員を加配して教員の負担を減らすなど工夫をすること。

令和3年度より段階的実施が決定。事務員の加配については、現在暫定的に加配されている。

6-1-1 令和元年度の障害者雇用率は2.34%となっている。引き続き法定雇用率を達成できるよう努力すること。短時間雇用を増やすなど、働き方に多様性を持たせ、精神障害者や知的障害者に加え、難病や長期慢性疾患患者等の就労も促進すること。

令和4年度知的障害、精神障害者の正規雇用採用に向けて動いている。

11-4-1 学校と地域住民が一体となって学校運営を行っていくため、コミュニティ・スクールの導入検討を加速させること。

令和3年より段階的導入。次年度モデル校の設置が決定した。

16-1-5 依存症、ひきこもり等に悩む当事者や周囲の人が、コロナ禍においても相談先や自助グループにつながるよう、積極的な情報発信・アウトリーチを行うこと。

コロナ禍でも事業を止めずアウトリーチも強化していくことを確認した。